

ながえの里だより

医療法人ながえ会 広報誌(第47号)

発行日 令和8年1月5日

発行責任者 西村美智子



日本医療機能評価機構 認定病院
医療法人ながえ会

庄原同仁病院
庄原同仁病院介護医療院
〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel : 0824-72-7300

Fax : 0824-72-7333

e-mail : info@nagaekai.com

URL : https://nagaekai.com/



「北地区ふるさと祭りにて(庄原市川北町)」

～ 新年のご挨拶 ～

新年あけましておめでとうございます。

厳しい医療情勢の折ではございますが、職員一同、より一層、皆さまに信頼される医療・介護サービスの提供に努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

医療法人ながえ会 理事長 村尾 文規

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

褥瘡を考える

医療法人ながえ会 理事長 村尾文規

「我包帯す、神、癒し賜う」(アンブロワーズ・パレ, フランス)

50数年前、学生のころはじめて褥瘡をみて愕然とした。創傷治癒機転にあらがう要素が余りにも多すぎると思ったからである。強烈な印象で軽い嘔気さえおぼえたことを、いまでも鮮烈な記憶として残っている。治癒させるために私たちができることは限られている、ということを知らなければならない。

創傷は、4段階を経て治癒するといわれている。最初、損傷した血管が収縮し、血小板が集まって血液凝固塊を形成して止血し、血小板から成長因子が分泌され、炎症期の準備がスタートする。やがて、白血球(好中球やマクロファージなど)が創部に集まり、微生物や壊死組織を排除して創部を清浄化する。創傷治癒において非常に重要な時期である。

その後、肉芽組織が形成し、血管新生が促進し、表皮細胞が創縁から増殖し、上皮化が進むのであるが、創傷治癒の最終段階では、コラーゲン線維が再配列され、組織の強度が増してくる。この時期は、一見治癒が完了したように見える時期になる。創部の皮膚表面には、多くの細菌が定着し、易感染性である。圧迫による循環障害も起こりやすい。栄養状態の悪化も伴う。これらの要素を除去する作業に全力を注ぐ。あとは、そのひとつの自然治癒力に期待することになる。

冒頭の言葉は、日本の外科医療にも多大な影響を与えたという、アンブロワーズ・パレ(フランスの王室公式外科医)の言葉である。医療を施す者へ、謙虚であれと警告を発している。

褥瘡は、一旦発生すると、治癒させることが困難を極めることは衆目が認めるところだ。

しかし、最近、治癒する症例が増えてきている。スタッフの不断の努力によるものであることは言うまでもない。担当職員のことばにあるように、日頃、皮膚の生理機能を知り、皮膚の状況を視ることが非常に大切であることを指摘している。治療上も予防の観点からも、視ることが大切なのである。マンパワーが必要である。皮膚の変化に気を配らなければならない。

異なる目で丹念に見切ることが大切だからである。文献によると頻度の違いはあるはずなのだが、好発部位は背部全体にある。とくに圧迫の起こりやすい部位の皮膚をことごとく視るのは容易なことではない。そこには、『絶対に褥瘡を作らない』という思いやりが大切である。その思いやりこそ、患者にも医療を支えるチームを維持する上でも不可欠だと思う。

チーム医療の重要性が指摘されてきた。

チームとは「同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと」である(広辞苑)。治療のための組織は個の集まりで、個を統括して同じ方向に向かわせる必要がある。足並みをそろえて「連携」することが必須なのである。

アンドリュー・カーネギー(米国人の実業家、慈善家)の言葉を引くと、チームワークとは共通のビジョンに向けて協力する能力で、それは凡人が非凡な結果を達成するための燃料だという。

治癒に至る過程を確実に歩ませる作業のための燃料を確実に燃焼させるために、力の限りをつくすには『思いやる気持ち』が大切で、伝統や慣習にとらわれることなく思うがままに振舞う個の力を発揮させるために『思いやる気持ち』が不可欠なのだ。

これが触媒効果を発揮し完全燃焼にいたるはずだ。ここまでの作業が、『包帯する』という行為である。

あとは神様が治し給うのである。



「多職種で支える褥瘡ケア」

庄原同仁病院 看護主任 宮野咲子



当院では、高齢で寝たきりの患者さまが多く、生活の質の維持に大きく影響する褥瘡（床ずれ）予防と早期発見にスタッフ一同、力を入れて取り組んでいます。褥瘡は、体重による圧迫や摩擦などで皮膚の血流が悪くなり、傷ができてしまう状態です。患者さま一人ひとりの状態に合わせ、小さな変化も見逃さないよう丁寧な観察とケアを心掛けています。

★ 多職種で支える褥瘡ケア

褥瘡対策では、スタッフ間で情報を共有し、医師、薬剤師、看護職員、介護職員、リハビリ職員、栄養士・管理栄養士などの多職種が連携して一体となり、ケアにあたっています。

医師：診断・治療方針を決定、薬物療法、創傷処置

薬剤師：薬剤やドレッシング材の提案・情報提供

看護職員：毎日の皮膚観察、スキンケア、1～2時間おきの体位変換、環境調整

介護職員：1～2時間おきの体位変換、環境調整

リハビリ：姿勢調整や寝返り・座位などの動作支援

栄養士：栄養状態の評価と栄養補助食品の調整



医師による処置



多職種での情報共有



栄養についての協議

こうした多角的なケアにより、褥瘡の予防と改善を目指しています。

★ 体圧分散マットレス・エアーマットの活用

圧迫を軽減し、特定部位に負担が集中するのを防ぐため、体圧分散マットレスやエアーマットを積極的に導入し、使用しています。身体の状態に合わせた適切な機器選択と使用により、患者さまの痛みや不快感の軽減に努めています。

★ 毎日のスキンチェックで安心を

毎日のケア時に皮膚の状態を細かくチェックし、わずかな赤みや変化も見逃さないよう気を配っています。患者さまがより快適に、安心して療養生活を送っていただけるように、日々の丁寧な観察とケアを大切にしています。

★ ご家族と一緒に取り組む褥瘡予防

褥瘡予防には、医療・介護スタッフによるケアだけではなく、ご家族の気づきやお声かけも大切な役割を担っています。ご面会時に、皮膚の赤みや湿り、姿勢の偏りなどに気づかれた際には、どんな小さなことでもスタッフへお知らせください。私たちは、ご家族とも情報を共有しながら、チーム一丸となって褥瘡予防に取り組んでいます。

～～ 私たちの想い ～～

褥瘡ケアは、日々の小さな気づきと丁寧なケアの積み重ねが何よりも大切です。

私たちは、患者さま一人ひとりの状態に目を向け、褥瘡の発生予防や苦痛の軽減に努めるとともに、チームで情報を共有しながらケアに取り組んでいます。今後も、患者さまがその人らしく過ごしていただけるよう、スタッフ一同、温かいケアを続けてまいります。

Topics

庄原市出前トーク ～認知症予防について～

令和7年10月18日、10月20日、11月13日に、庄原市から出前トークの依頼を受けて、地域のサロンなどを訪問して「認知症予防について」のお話をさせていただきました。

2040年、65歳以上の高齢者の7人に1人が認知症になると言われています。「認知症になったらどうしよう？」と誰もが身近に感じる問題となってきました。

最近よく耳にするMCI（軽度認知障害）など、予防するにはどんなことに気を付けたらいいの？認知症の方にはどのように接したらいいの？など、お話をさせていただきました。

皆さん、お元気な方々ですが、「最近はものをよう忘れるようになった」「名前が出てこんのよ」「あれ、あれ、が多くなった」など不安があるようです。私たちが地域へ出向いてお話をすることで、認知症のことをもっと知ってもらい、家族や地域で支えあうことの重要性もお話しすることができました。

地域の方々と触れ合うことが少ない私たちにとって、日常業務では経験できない良い機会となり、これからも地域から必要とされる病院、職員でありたいと改めて思いました。

庄原同仁病院介護医療院 介護主任 福光登紀子



秋国構造改善センターにて

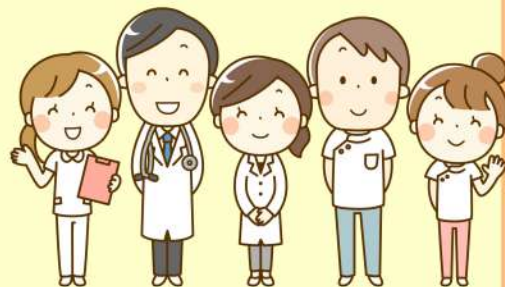


大胡サロンにて

Join Us!

新入職員紹介

原本 昭子	介護福祉士	介護医療院	令和7年6月入職
松島 里美	看護職員	医療病棟	令和7年8月入職
村上 和也	介護福祉士	介護医療院	令和7年8月入職
足立 牧代	介護職員	医療病棟	令和7年10月入職
今野 可奈	調理員	栄養科	令和7年11月入職
棟山 恵美子	看護職員	医療病棟	令和7年11月入職



医療法人ながえ会では、現在、薬剤師をはじめ、看護職員、介護職員を募集中です。
スタッフが生き生きと働きやすい職場づくりを目指して、休暇や福利厚生も充実しております。
お気軽にお問合せください！！ 【 担当 事務長 西村まで TEL：0824-72-7300 】

編集後記

2025年10月21日、日本初の女性総理大臣が誕生しました。高市早苗首相は所信表明演説において、物価高対策の一環として、経営難が深刻化する医療機関や介護施設への支援の必要性を明言し、医療・介護の現場にとって心強いメッセージとなりました。

現在、全国の病院の約7割が赤字経営とも言われ、物価高騰に加え、医師の偏在や人材不足等により、地域医療はかつてない厳しい局面に立たされています。そうした状況下においても、医療・介護従事者は日々、目の前の患者さまに寄り添い、当院においても、褥瘡ケアや認知症ケアをはじめ、治療及びケアの質の維持・向上に取り組んでいます。その姿に、改めて深い敬意の念を抱かずにはられません。

昨年末の国会では、医療・介護分野への大型の補正予算が可決され、高市首相は早速、有言実行の姿勢を示されました。私自身も、地域医療への貢献という使命を胸に、今年1年「働いて、働いて、働いて、働いて、働いてまいります（ワークライフバランスを保ちつつ…）」 地域連携室 社会福祉士 山野友和